



ディスク作成ユーティリティ マニュアル

Windows 11 / Windows 10

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| 本書をお読みになる前に..... | 3 |
| 本書の表記..... | 3 |
| 必要に応じてお読みください..... | 5 |
| 1 ディスク作成..... | 5 |
| 1.1 ディスク作成の考え方..... | 5 |
| 1.2 ディスク作成前の準備..... | 6 |
| 1.3 ディスクを作成する..... | 7 |
| 2 内蔵ディスク全体のリカバリおよびセットアップ..... | 32 |



本書をお読みになる前に

本書の表記

本書は 2023 年 12 月現在の内容です。本書をお読みになり、ご不明な点がございましたら、『取扱説明書』に記載の「お問い合わせ先」へお問い合わせください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| 記号 | 意味 |
|--|--|
|  重要 | お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
|  POINT | 操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。 |
| → | 参照ページを示しています。 |

■ 本文中の記載

本文では、「内蔵ハードディスク」および「内蔵フラッシュメモリディスク」を総称して「内蔵ディスク」と記載しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本書では、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。なお、アプリの状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。なお、本文内において、機種や OS 別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ ユーザーアカウント制御ウィンドウ

本書で説明している Windows の操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前に Windows が表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 光学ドライブ

本書では、DVD-R DL (8.5GB) または DVD+R DL (8.5GB) に書き込みができる光学ドライブを搭載していることを前提に記述しています。お使いの機種やモデルによって、書き込みができる光学ドライブがない場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。

使用できる外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」 (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) をご覧ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

| 製品名称 | 本文中の表記 | |
|--|------------|---------|
| Windows 11 Pro | Windows 11 | Windows |
| Windows 11 Home ^注 | | |
| Windows 11 Pro (Windows 10 Pro プリインストールにダウングレード) | Windows 10 | |
| CyberLink PowerDVD | PowerDVD | |
| CyberLink Power2Go | Power2Go | |

注：Windows 11 Home は ESPRIMO シリーズに対応機種があります。

■ 商標および著作権について

CyberLink、PowerDVD、Power2Go は、CyberLink Corporation の商標または登録商標です。その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。その他の各製品は、各社の著作物です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2023

必要に応じてお読みください

1 ディスク作成

リカバリするためには、事前にディスク作成が必要です。

重要

- ▶ 本製品をご購入後、お手元にディスクがない場合は、できるだけ早い時期にディスクを作成してください。
- ▶ カスタムメイドでリカバリデータディスクを選択していない場合、ドライバースディスクは添付されていません（モデルやカスタムメイドの選択によっては、添付されている場合があります）。リカバリを行う前にディスクを作成してください。
- ▶ ディスク作成には Power2Go を使用します。Power2Go はプリインストールされていますが、もしアンインストールした場合は再インストールしてください。詳しくは『製品ガイド（共通編）』の「第1章 アプリ」の「1.2.1 「ドライバースディスク検索」からのインストール」をご覧ください。

1.1 ディスク作成の考え方

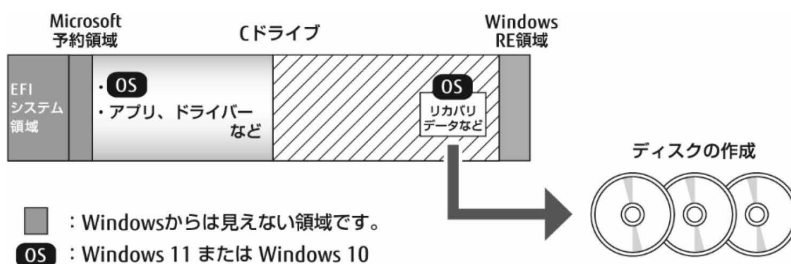
本製品にトラブルがあった場合に備えて、またはご購入時にインストールされていないアプリを使用する場合に、次のディスクが必要になります。

- リカバリデータディスク
内蔵ディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。
- リカバリ起動ディスク
リカバリを実行する場合、このディスクから起動します。
- ドライバースディスク
アプリやドライバーをインストールする場合に使用します。

重要

- ▶ ご購入時に添付されているすべてのアプリやドライバーが、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）に公開されているわけではありません。添付のアプリやドライバーをインストールしたい場合は、「ドライバースディスク」を作成してください。
- CyberLink PowerDVD ディスク（光学ドライブ搭載機種）
DVD を再生するときに必要なアプリ「PowerDVD」が格納されています。

□ ご購入時の内蔵ディスクの状態およびディスク作成のイメージ図



1.2 ディスク作成前の準備

ディスクを作成する前に、次の準備を行ってください。

■ 型名を確認する

作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本製品の型名を確認してください。

■ 光学ドライブを接続する（書き込み可能な光学ドライブ非搭載機種）

ディスクを作成するときには、必ず書き込み可能な外付け光学ドライブを接続してください。

■ ディスクを用意する

- 使用できるディスク
DVD-R DL (8.5GB) または DVD+R DL (8.5GB) が必要です。その他のディスクはお使いになれません。
- 推奨ディスク
インターネット上のマニュアル『製品ガイド（機種別編）』をご覧ください。
- 必要なディスクの枚数
必要なディスクの枚数は、「1.3 ディスクを作成する」（→P.7）で確認できます。

1.3 ディスクを作成する

合計 4 枚または 5 枚（光学ドライブ搭載機種）のディスクを作成します。各ディスクで作成方法は異なります。

- ・リカバリ起動ディスク（→P.7）
- ・リカバリデータディスク 1（→P.10）
- ・リカバリデータディスク 2（→P.14）
- ・ドライバーズディスク（→P.18）
- ・CyberLink PowerDVD ディスク（光学ドライブ搭載機種）（→P.25）
- ・リカバリディスクセットの検証（→P.29）

□ リカバリ起動ディスク

1. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

□ Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックします。

Power2Go が起動し、画面が表示されます。

POINT

- ▶ Power2Go は前回のご使用の内容を保持するため、リカバリディスク作成以前に Power2Go を使ったことがある場合は、起動時の画面の選択状態などが異なる場合があります。以下は、Power2Go のメイン画面からの手順になります。

2. 「ディスク コピー」を選択します。
3. 「ディスク イメージの書き込み」をクリックします。



「ディスク イメージの書き込み」画面が表示されます。

4. 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前「リカバリ起動ディスク」と機種名(型名)を記入します。

POINT

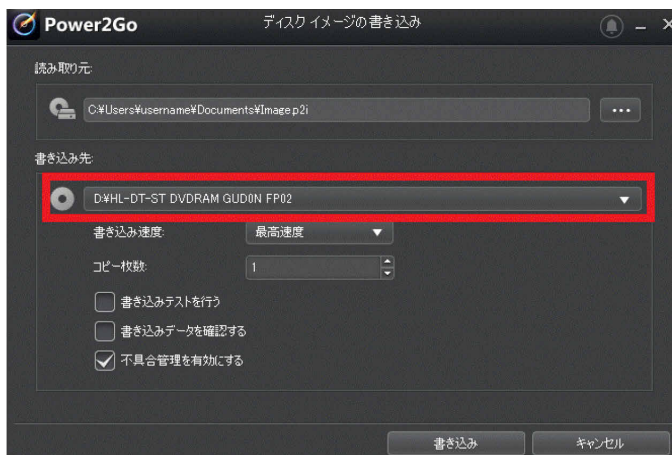
- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

5. 手順4で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。
- ▶ 「空の DVD (または BD) に対して行う操作を選んでください」画面が表示された場合は「何もしない」をクリックしてください。

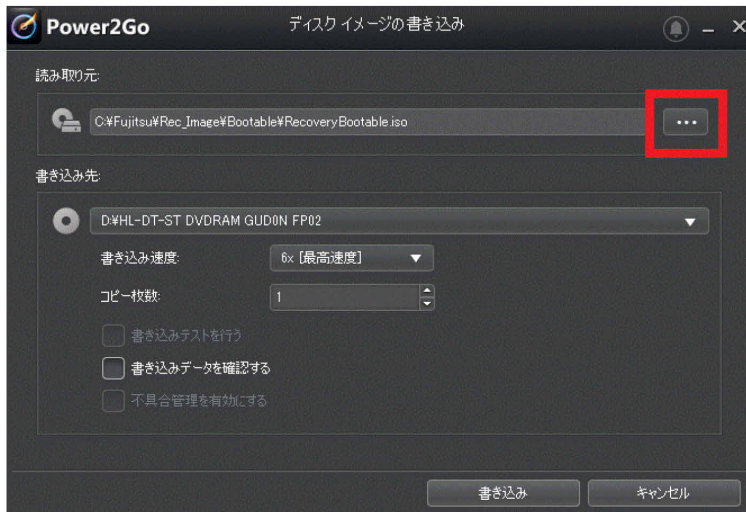
書き込み先にドライブ名が表示されていることを確認します。(ドライブ名はご使用の環境により異なります。)



- 読み取り元の「…」ボタンをクリックし、次のファイルを選択します。

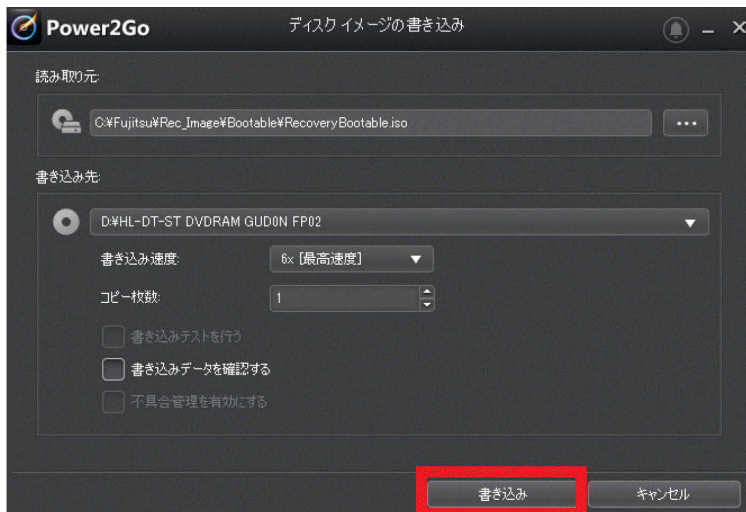
C:\Fujitsu\Rec_Image\Bootable\Recovery\Bootable.iso

読み取り元に上記の内容が表示されていることを確認します。



- 「書き込み」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。



- 「ディスクイメージの書き込み：作業が完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。
- Power2Go のメイン画面に戻ります。「×」ボタンをクリックし、終了します。

以上でディスク作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。続けて、リカバリデータディスク 1 を作成します。

□ リカバリデータディスク 1

1. 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前「リカバリデータディスク 1」と機種名（型名）を記入します。

POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

2. 手順 1 で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。
- ▶ 「空の DVD（または BD）に対して行う操作を選んでください」画面が表示された場合は「何もしない」をクリックしてください。

3. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

- Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックします。

Power2Go が起動し、画面が表示されます。

POINT

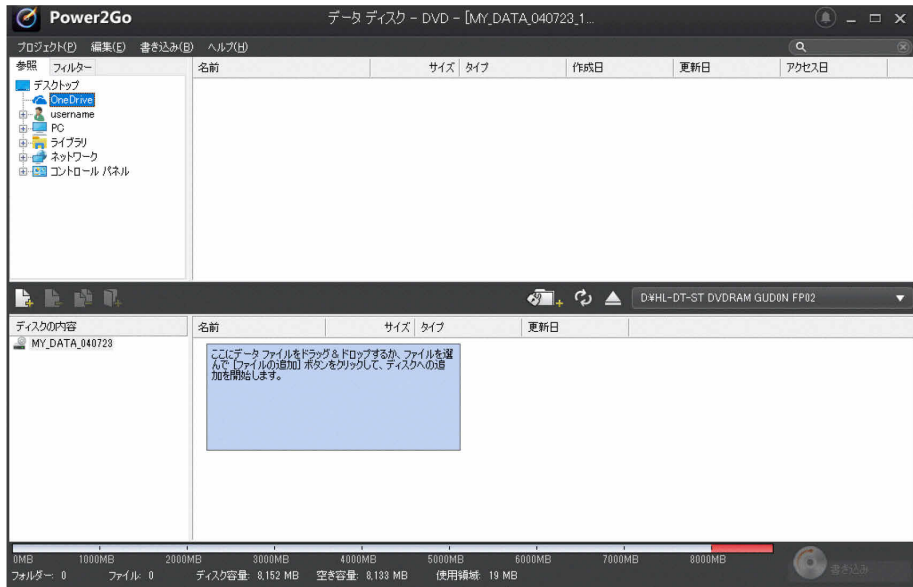
- ▶ Power2Go は前回のご使用の内容を保持するため、リカバリディスク作成以前に Power2Go を使ったことがある場合は、画面の選択状態などが異なる場合があります。以下は、Power2Go のメイン画面からの手順になります。

4. 「データ ディスク」を選択します。

5. 「DVD」をクリックします。



「データディスク - DVD」画面が表示されます。(表示内容はご使用の環境により異なる場合があります。)



- 画面上側の検索ペイン（ファイルやフォルダーの一覧）から、次のフォルダーまで移動します。

C:¥Fujitsu¥Rec_Image¥disc1

検索ペインの右側に「disc1」フォルダーの内容が表示されます。

POINT

- ▶ フォルダー内容は、お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



7. このフォルダー内の全ファイルと全フォルダーを選択して、画面中央左側にある「ファイルをディスクの内容に追加」ボタンをクリックします。

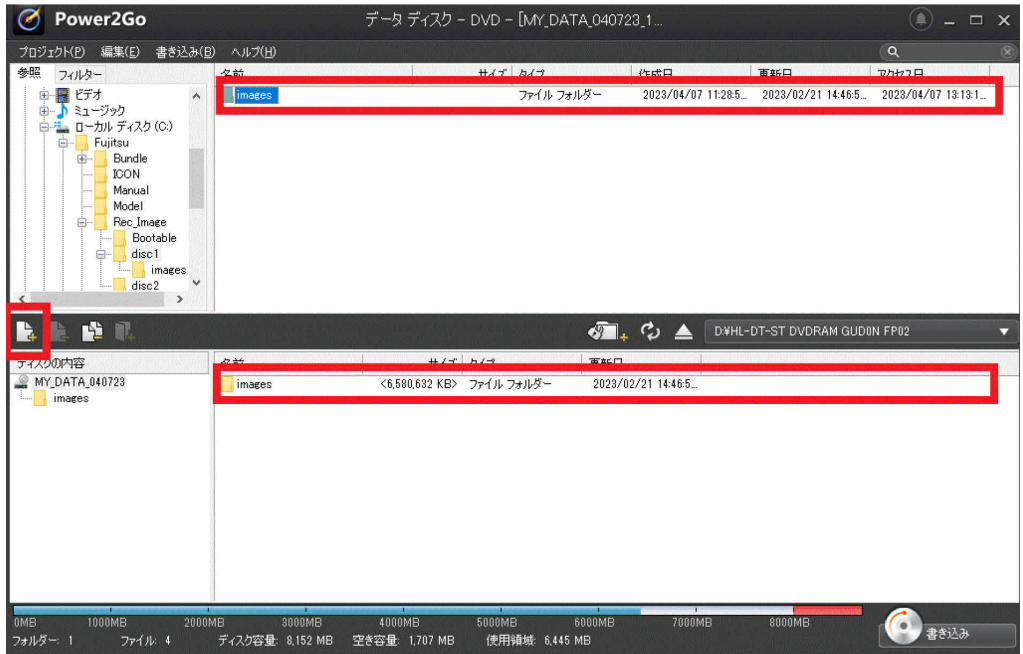
画面下側に選択したファイルとフォルダーが表示されます。

重要

- ▶ 「disc1」フォルダーそのものではなく、「disc1」フォルダーの中の全ファイルと全フォルダーが選択されていることを確認してください。

POINT

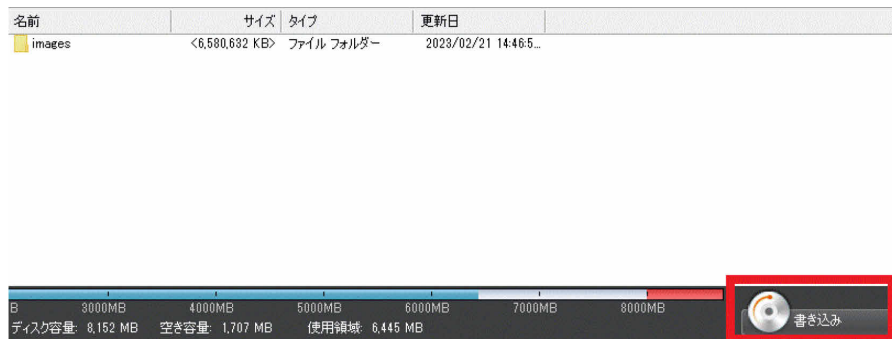
- ▶ お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



8. 画面中央右側に、光学ドライブ名が表示されていることを確認します。

光学ドライブになっていない場合は、光学ドライブを選択してください。（ドライブ名はご使用の環境により異なります。）

9. 画面右下の「書き込み」をクリックします。



「設定/情報」画面が表示されます。

10. 「設定/情報」画面で、「追記禁止」にチェックを入れて、「書き込み」をクリックします。ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「書き込み」をクリックした後、画面が固まって見える場合がありますが、そのままお待ちください。次に「書き込み中」の画面が表示されます。
- ▶ 書き込み中に、クローズ速度について確認のメッセージが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。



11. 「データ ディスク：作業が完了しました。」と表示されます。「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。

POINT

- ▶ 手順 11 の後、続けてディスクを作成する場合は、「ディスクの内容からコンテンツを全て消去」ボタンをクリックします。次は「リカバリデータディスク 2」(→P.14) の手順 1、手順 2 でディスクを光学ドライブにセットした後、手順 6 をご覧ください。

12. 「×」ボタンをクリックし、書き込み画面を終了します。
13. 「プロジェクト 保存の確認」が表示されます。「いいえ」をクリックします。
14. Power2Go のメイン画面に戻ります。「×」ボタンをクリックし、終了します。

以上でディスク作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。続けて、リカバリデータディスク 2 を作成します。

□ リカバリデータディスク 2

1. 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前「リカバリデータディスク 2」と機種名（型名）を記入します。

POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

2. 手順 1 で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。
- ▶ 「空の DVD（または BD）に対して行う操作を選んでください」画面が表示された場合は「何もしない」をクリックしてください。

3. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

- Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックします。

Power2Go が起動し、画面が表示されます。

POINT

- ▶ Power2Go は前回のご使用の内容を保持するため、リカバリディスク作成以前に Power2Go を使ったことがある場合は、画面の選択状態などが異なる場合があります。以下は、Power2Go のメイン画面からの手順になります。

4. 「データ ディスク」を選択します。

5. 「DVD」をクリックします。



「データディスク - DVD」画面が表示されます。(表示内容はご使用の環境により異なる場合があります。)



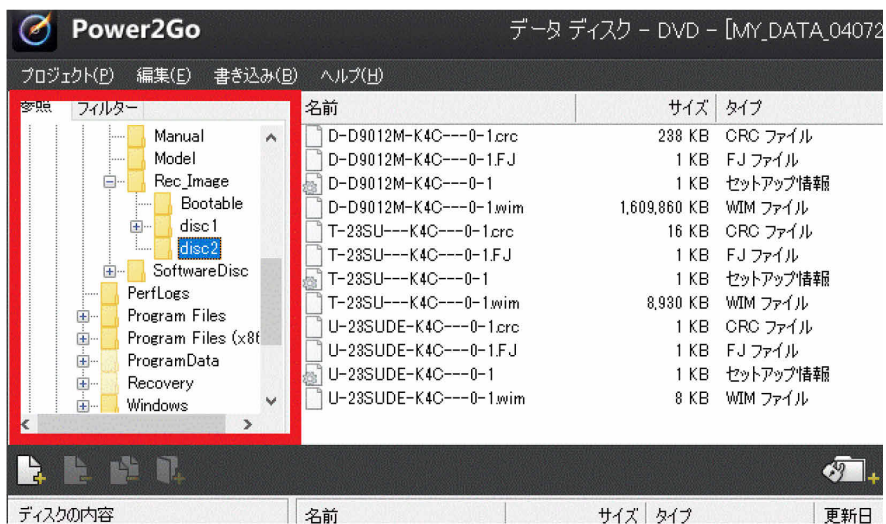
- 画面上側の検索ペイン (ファイルやフォルダーの一覧) から、次のフォルダーまで移動します。

C:¥Fujitsu¥Rec_Image¥disc2

検索ペインの右側に「disc2」フォルダーの内容が表示されます。

POINT

- ▶ フォルダ内容は、お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



7. このフォルダー内の全ファイルと全フォルダーを選択して、画面中央左側にある「ファイルをディスクの内容に追加」ボタンをクリックします。

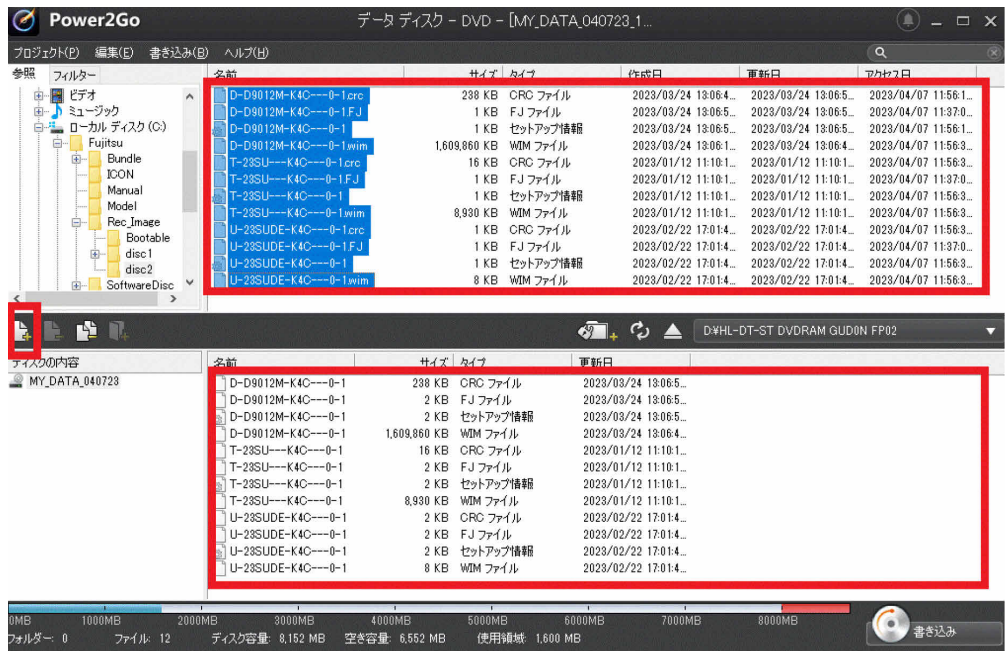
画面下側に選択したファイルとフォルダーが表示されます。

重要

- ▶ 「disc2」フォルダーそのものではなく、「disc2」フォルダーの中の全ファイルと全フォルダーが選択されていることを確認してください。

POINT

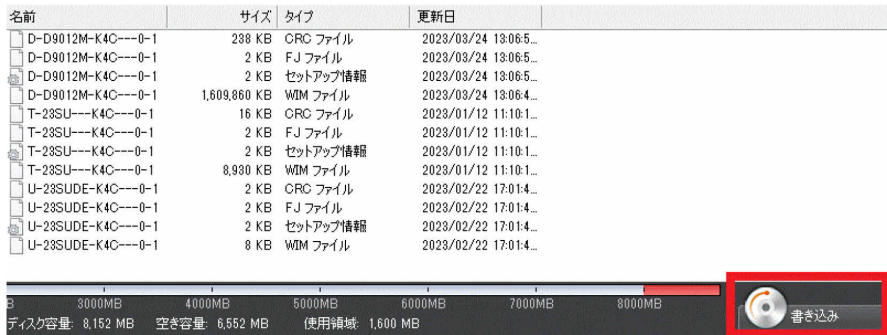
- ▶ お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



8. 画面中央右側に、光学ドライブ名が表示されていることを確認します。

光学ドライブになっていない場合は、光学ドライブを選択してください。(ドライブ名はご使用の環境により異なります。)

9. 画面右下の「書き込み」をクリックします。



「設定/情報」画面が表示されます。

10. 「設定/情報」画面で、「追記禁止」にチェックを入れて、「書き込み」をクリックします。ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「書き込み」をクリックした後、画面が固まって見える場合がありますが、そのままお待ちください。次に「書き込み中」の画面が表示されます。
- ▶ 書き込み中に、クローズ速度について確認のメッセージが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。



11. 「データ ディスク：作業が完了しました。」と表示されます。「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。

POINT

- ▶ 手順 11 の後、続けてディスクを作成する場合は、「ディスクの内容からコンテンツを全て消去」ボタンをクリックします。次は「ドライバースディスク」(→P.18)の手順 1、手順 2 でディスクを光学ドライブにセットした後、手順 6 をご覧ください。

12. 「×」ボタンをクリックし、書き込み画面を終了します。
13. 「プロジェクト 保存の確認」が表示されます。「いいえ」をクリックします。
14. Power2Go のメイン画面に戻ります。「×」ボタンをクリックし、終了します。

以上でディスク作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。続けて、ドライバースディスクを作成します。

□ ドライバースディスク

1. 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前「ドライバースディスク」と機種名（型名）を記入します。

POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

2. 手順1で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。
- ▶ 「空のDVD（またはBD）に対して行う操作を選んでください」画面が表示された場合は「何もしない」をクリックしてください。

3. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

- Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックします。

Power2Go が起動し、画面が表示されます。

POINT

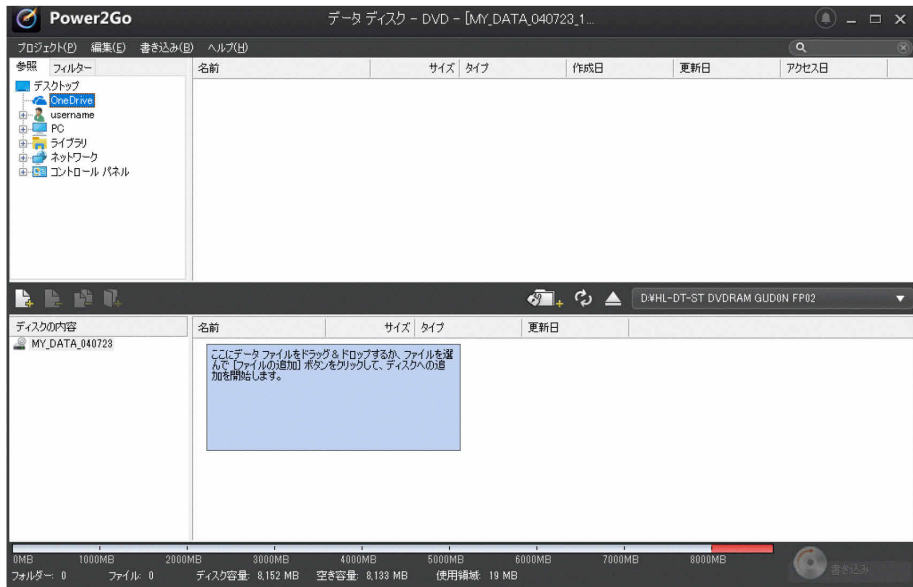
- ▶ Power2Go は前回のご使用の内容を保持するため、リカバリディスク作成以前に Power2Go を使ったことがある場合は、画面の選択状態などが異なる場合があります。以下は、Power2Go のメイン画面からの手順になります。

4. 「データ ディスク」を選択します。

5. 「DVD」をクリックします。



「データディスク - DVD」画面が表示されます。(表示内容はご使用の環境により異なる場合があります。)



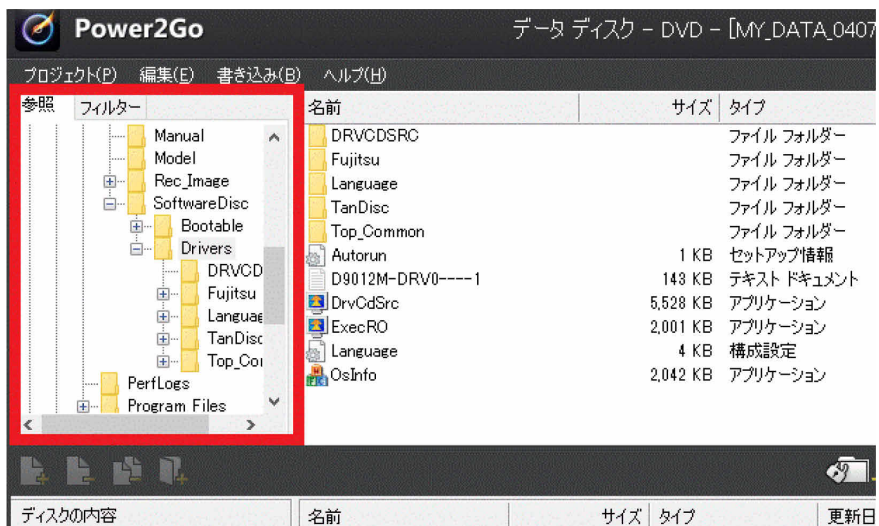
- 画面上側の検索ペイン（ファイルやフォルダーの一覧）から、次のフォルダーまで移動します。

C:¥Fujitsu¥SoftwareDisc¥Drivers

検索ペインの右側に「Drivers」フォルダーの内容が表示されます。

POINT

- ▶ フォルダー内容は、お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



7. このフォルダー内の全ファイルと全フォルダーを選択して、画面中央左側にある「ファイルをディスクの内容に追加」ボタンをクリックします。

画面下側に選択したファイルとフォルダーが表示されます。

重要

- ▶ 「Drivers」フォルダーそのものではなく、「Drivers」フォルダーの中の全ファイルと全フォルダーが選択されていることを確認してください。

POINT

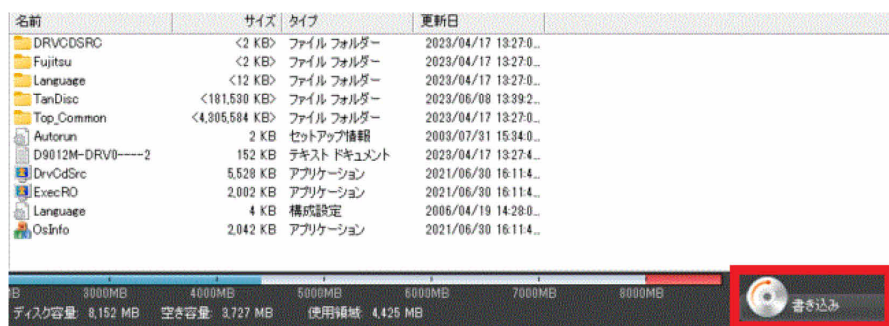
- ▶ お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



8. 画面中央右側に、光学ドライブ名が表示されていることを確認します。

光学ドライブになっていない場合は、光学ドライブを選択してください。（ドライブ名はご使用の環境により異なります。）

9. 画面右下の「書き込み」をクリックします。

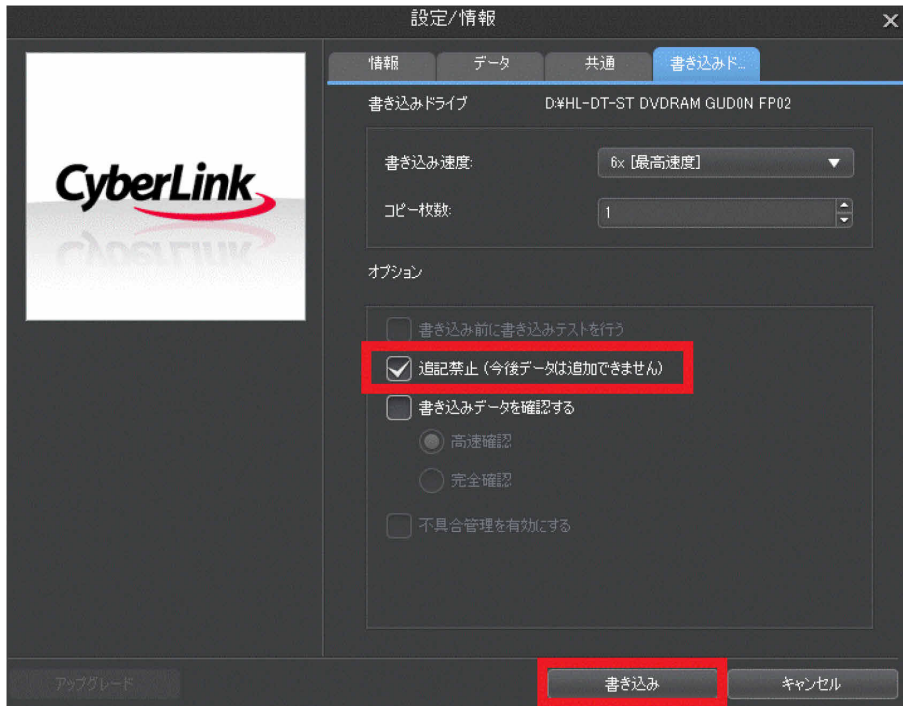


「設定/情報」画面が表示されます。

10. 「設定/情報」画面で、「追記禁止」にチェックを入れて、「書き込み」をクリックします。ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「書き込み」をクリックした後、画面が固まって見える場合がありますが、そのままお待ちください。次に「書き込み中」の画面が表示されます。
- ▶ 書き込み中に、クローズ速度について確認のメッセージが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。

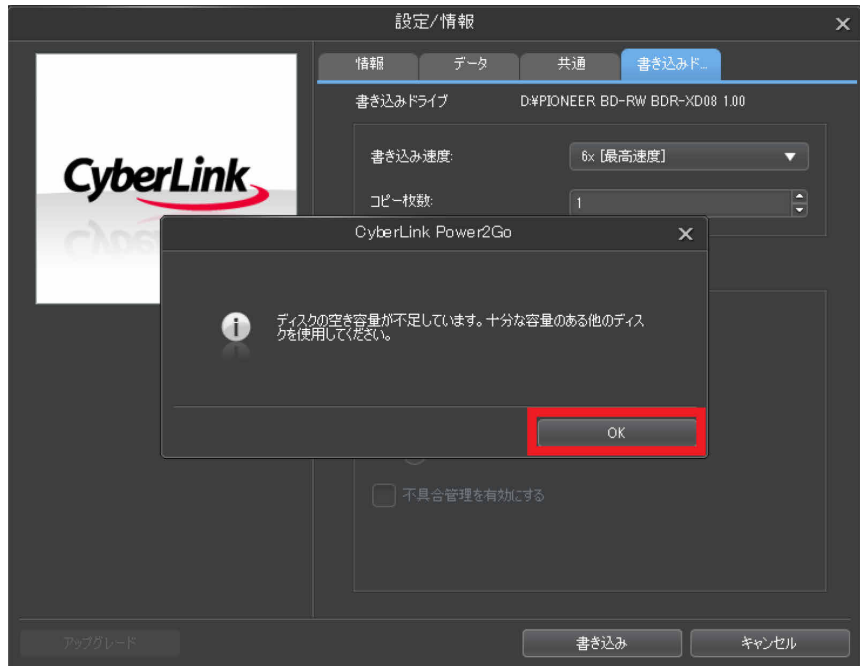


重要

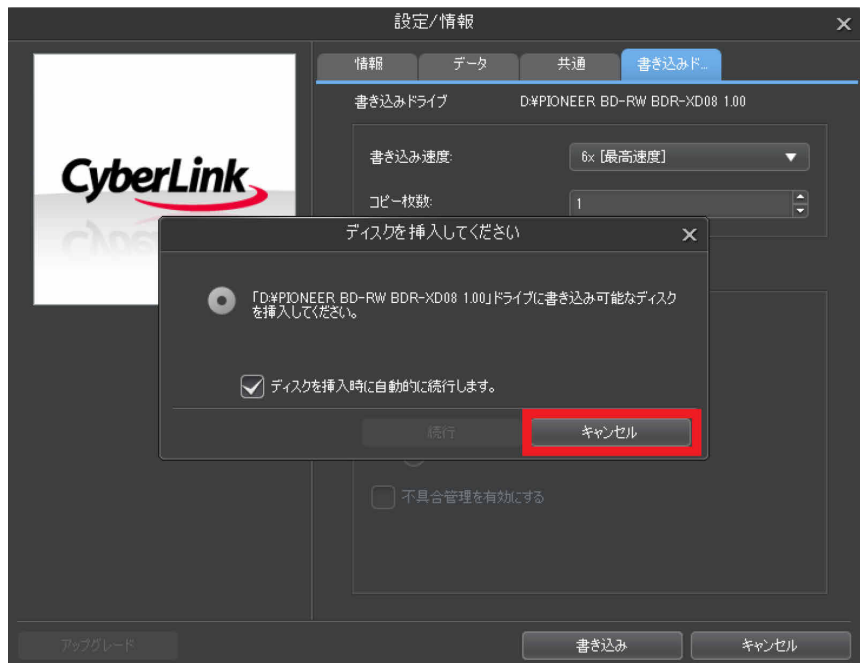
- ▶ 「書き込み」をクリックした後、ディスクの空き容量の不足により「ディスクの空き容量が不足しています。十分な容量のある他のディスクを使用してください。」というメッセージが表示されてドライブディスクを作成できない場合があります。その場合は次の対処方法 (→P.22) をご覧ください。
- ▶ 「書き込み」をクリックした後、「ディスクの空き容量が不足しています。十分な容量のある他のディスクを使用してください。」というメッセージが表示されない場合は、「ドライブディスク」の手順 11 (→P.24) をご覧ください。

○対処方法

1. 「ディスクの空き容量が不足しています。十分な容量のある他のディスクを使用してください。」表示画面で「OK」をクリックします。



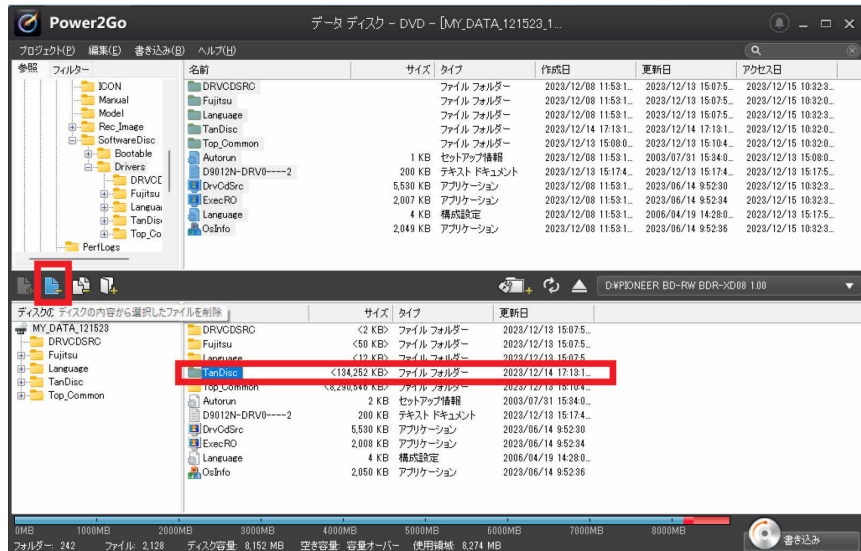
2. 「ディスクを挿入してください」画面で「キャンセル」をクリックします。



3. 「設定/情報」画面で「キャンセル」をクリックします。



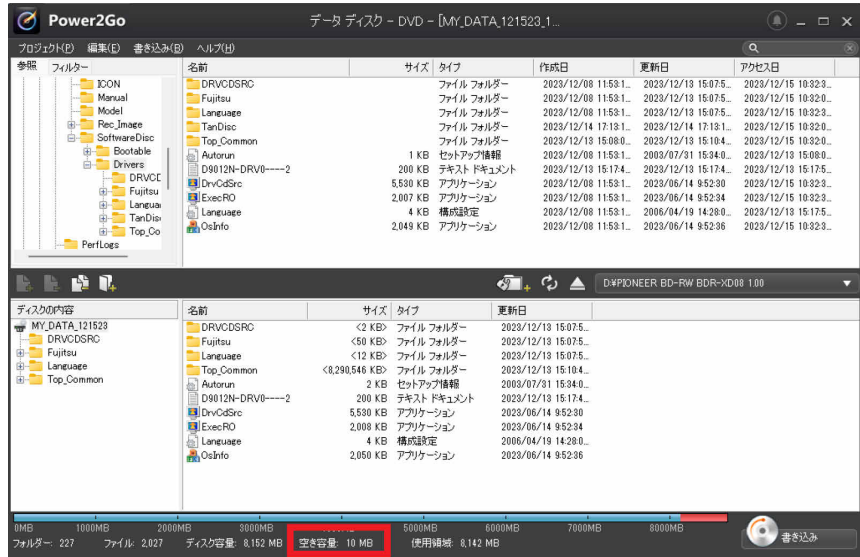
4. 画面下側のフォルダーから「TanDisc」フォルダーをクリックして選択し、画面中央左側にある「ディスクの内容から選択したファイルを削除」ボタンをクリックします。



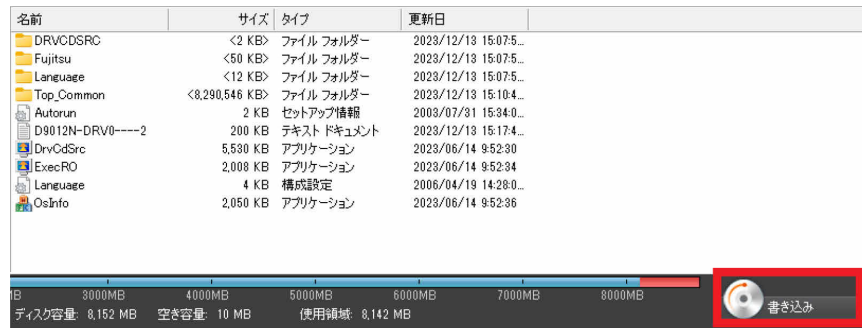
POINT

- ▶ お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。またドライブ名はご使用の環境により異なります。

5. 画面下側の「空き容量：」部分に「容量オーバー」と表示されていないことを確認します。



6. 画面下側の「書き込み」をクリックします。



7. 続けて再度「ドライバーズディスク」の手順 10 (→P.21) をご覧ください。

11. 「データ ディスク：作業が完了しました。」と表示されます。「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。

POINT

- ▶ 手順 11 の後、続けてディスクを作成する場合は、「ディスクの内容からコンテンツを全て消去」ボタンをクリックします。次は「CyberLink PowerDVD ディスク (光学ドライブ搭載機種)」(→P.25) の手順 1、手順 2 でディスクを光学ドライブにセットした後、手順 6 をご覧ください。

12. 「×」ボタンをクリックし、書き込み画面を終了します。
13. 「プロジェクト 保存の確認」が表示されます。「いいえ」をクリックします。
14. Power2Go のメイン画面に戻ります。「×」ボタンをクリックし、終了します。

以上でディスク作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。続けて、CyberLink PowerDVD ディスク (光学ドライブ搭載機種) を作成します。

□ CyberLink PowerDVD ディスク（光学ドライブ搭載機種）

1. 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前「CyberLink PowerDVD ディスク」と機種名（型名）を記入します。

POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

2. 手順 1 で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。
- ▶ 「空の DVD（または BD）に対して行う操作を選んでください」画面が表示された場合は「何もしない」をクリックしてください。

3. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

- Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu - ディスク作成ユーティリティ」→「ディスク作成ユーティリティ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックします。

Power2Go が起動し、画面が表示されます。

POINT

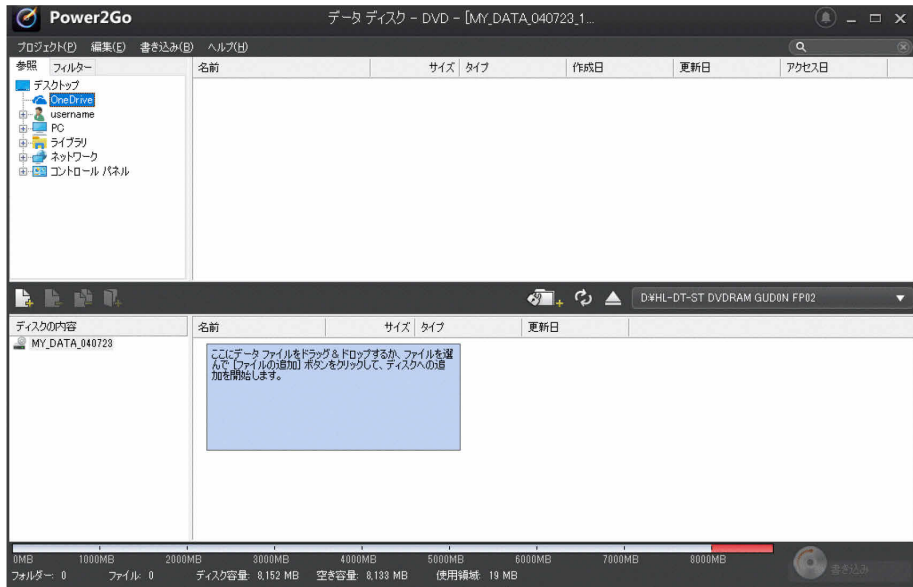
- ▶ Power2Go は前回のご使用の内容を保持するため、リカバリディスク作成以前に Power2Go を使ったことがある場合は、画面の選択状態などが異なる場合があります。以下は、Power2Go のメイン画面からの手順になります。

4. 「データ ディスク」を選択します。

5. 「DVD」をクリックします。



「データディスク - DVD」画面が表示されます。(表示内容はご使用の環境により異なる場合があります。)



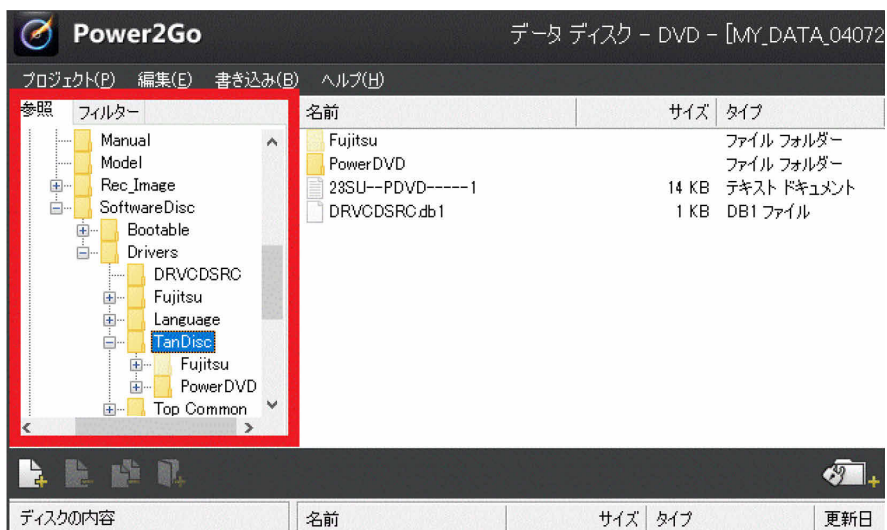
- 画面上側の検索ペイン（ファイルやフォルダーの一覧）から、次のフォルダーまで移動します。

C:\¥Fujitsu¥SoftwareDisc¥Drivers¥TanDisc

検索ペインの右側に「TanDisc」フォルダーの内容が表示されます。

POINT

- ▶ フォルダー内容は、お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



7. このフォルダー内の全ファイルと全フォルダーを選択して、画面中央左側にある「ファイルをディスクの内容に追加」ボタンをクリックします。

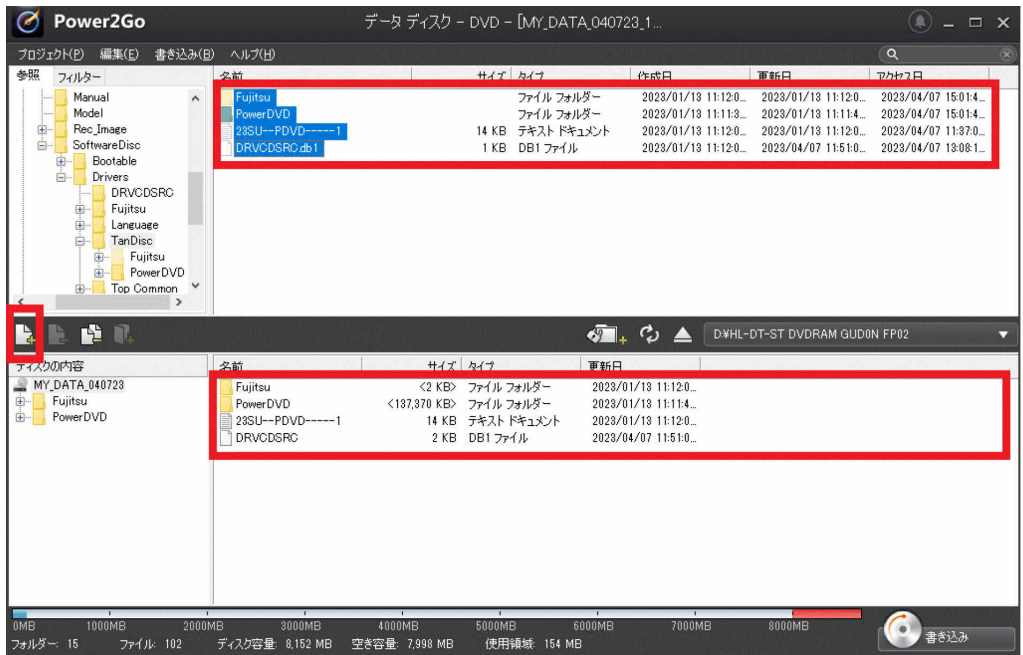
画面下側に選択したファイルとフォルダーが表示されます。

重要

- ▶ 「TanDisc」フォルダーそのものではなく、「TanDisc」フォルダーの中の全ファイルと全フォルダーを選択していることを確認してください。

POINT

- ▶ お使いの機種によってファイル名が異なる場合があります。



8. 画面中央右側に、光学ドライブ名が表示されていることを確認します。

光学ドライブになっていない場合は、光学ドライブを選択してください。（ドライブ名はご使用の環境により異なります。）

9. 画面右下の「書き込み」をクリックします。

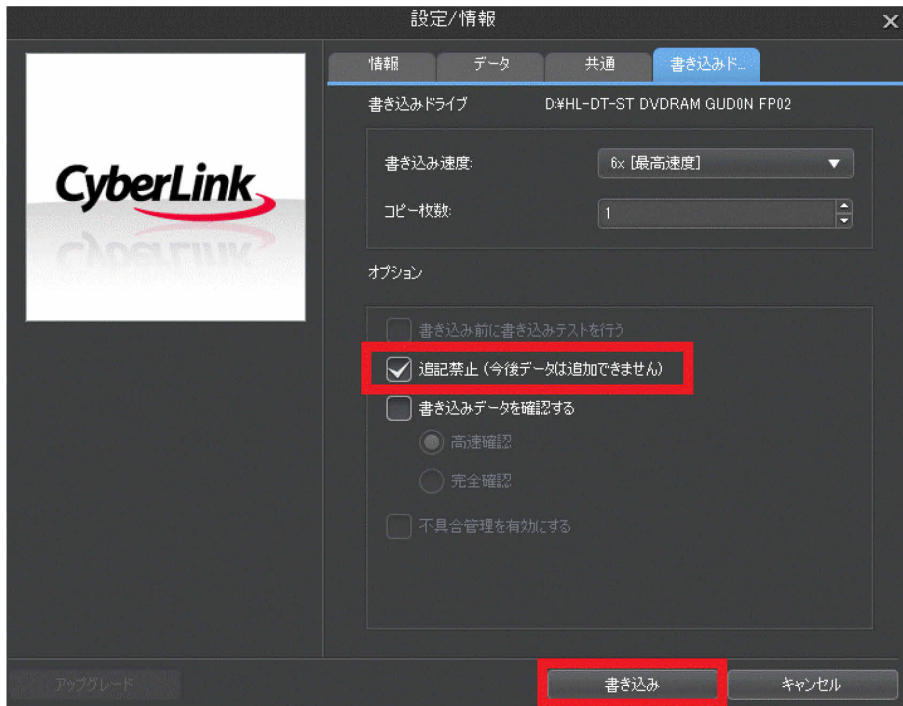


「設定/情報」画面が表示されます。

- 「設定/情報」画面で、「追記禁止」にチェックを入れて、「書き込み」をクリックします。ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「書き込み」をクリックした後、画面が固まって見える場合がありますが、そのままお待ちください。次に「書き込み中」の画面が表示されます。
- ▶ 書き込み中に、クローズ速度について確認のメッセージが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。



- 「データ ディスク：作業が完了しました。」と表示されます。「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。
- 「×」ボタンをクリックし、書き込み画面を終了します。
- 「プロジェクト 保存の確認」が表示されます。「いいえ」をクリックします。
- Power2Go のメイン画面に戻ります。「×」ボタンをクリックし、終了します。

以上でディスク作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。続けて、リカバリディスクセットが正しく作成されているか検証します。

□ リカバリディスクセットの検証

合計 4 枚または 5 枚（光学ドライブ搭載機種）のディスクを作成後、リカバリディスクセットが正しく作成されているか検証します。

1. タスクバーの「エクスプローラー」アイコンをクリックする、または「スタート」ボタンを右クリックし、表示されるメニューから「エクスプローラー」をクリックします。
2. 「エクスプローラー」から次のフォルダーまで移動します。

C:\¥Fujitsu¥CreateDisc

3. 次のファイルをダブルクリックします。

「RcvDiscChk」または「RcvDiscChk.exe」

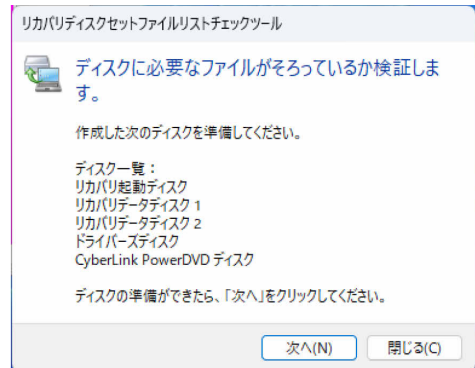
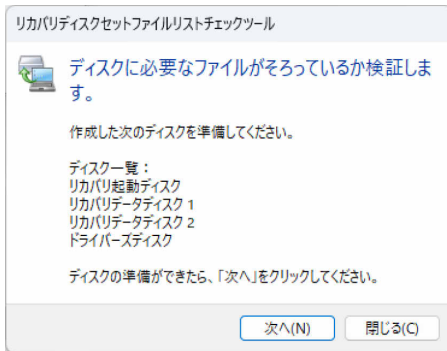
「リカバリディスクセットファイルリストチェックツール」が起動します。

この後は、画面の指示に従って操作します。

POINT

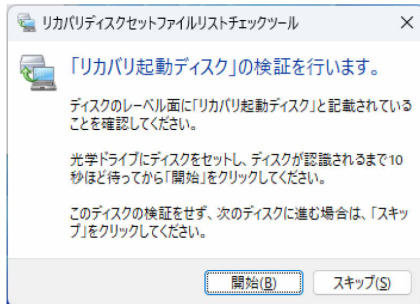
- ▶ 本ツールは、富士通製品の該当機種でのみ使用できます。

4. 「ディスクに必要なファイルがそろっているか検証します。作成した次のディスクを準備してください」画面では、表示されたディスクを準備して「次へ」をクリックします。



※光学ドライブ搭載機種の場合

5. 「リカバリ起動ディスク」の検証を行います。」画面では、光学ドライブにディスクをセットし、ディスクが認識されるまで 10 秒ほど待ってから「開始」をクリックしてください。このディスクの検証をせず、次のディスクに進む場合は、「スキップ」をクリックしてください。

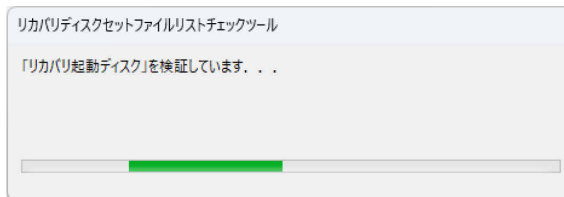


POINT

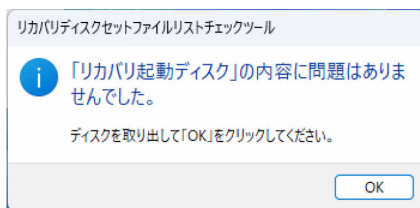
- ▶ 内蔵ディスクからデータを消去した場合は検証できません。「リカバリ起動ディスク」の検証をスキップします。

6. 「開始」クリック後、「リカバリ起動ディスク」の検証が始まります。

検証が完了するまでお待ちください。

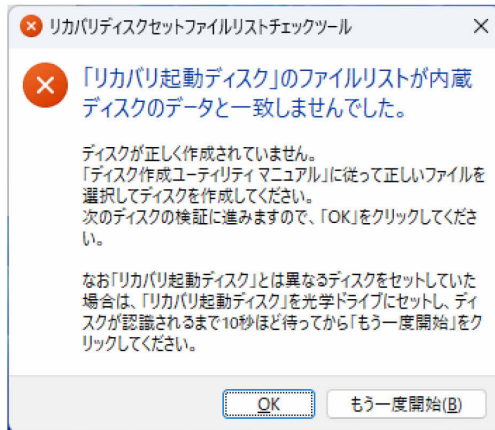


7. 「リカバリ起動ディスク」の内容に問題はありませんでした。」画面が表示された場合は、ディスクを取り出して「OK」をクリックしてください。



POINT

- ▶ 「「リカバリ起動ディスク」のファイルリストが内蔵ディスクのデータと一致しませんでした。」画面が表示された場合は、ディスクが正しく作成されていません。「ディスク作成ユーティリティ マニュアル」（本マニュアル）に従って正しいファイルを選択してディスクを作成してください。「OK」を押すと、画面を閉じて次のディスクの検証を行います。もう一度エラー画面を見る場合は、すべてのディスクを検証後に手順1から再度検証してください。なお「リカバリ起動ディスク」とは異なるディスクをセットしていた場合は、「リカバリ起動ディスク」を光学ドライブにセットし、ディスクが認識されるまで10秒ほど待ってから「もう一度開始」をクリックしてください。



8. 続けて、次の各ディスクの検証を行います。「(作成したディスク名)の検証を行います。」と表示されるので、手順5～手順7のディスク名「リカバリ起動ディスク」を(作成したディスク名)に読み替えて操作してください。

「リカバリデータディスク 1」

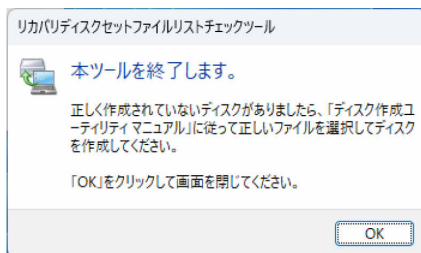
「リカバリデータディスク 2」

「ドライバーズディスク」

「CyberLink PowerDVD ディスク」(光学ドライブ搭載機種)

9. すべてのディスクの検証が終わると、「本ツールを終了します」画面が表示されます。「OK」をクリックして画面を閉じてください。

正しく作成されていないディスクがありましたら、「ディスク作成ユーティリティ マニュアル」(本マニュアル)に従って正しいファイルを選択してディスクを作成してください。



以上でリカバリディスクセットの検証は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。

2 内蔵ディスク全体のリカバリおよびセットアップ

内蔵ディスク全体のリカバリおよびセットアップについては、「リカバリガイド」をご覧ください。

□ リカバリガイド（本製品の内蔵ストレージに格納）

1. □ Windows 11 の場合

「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「リカバリガイド」の順にクリックします。

□ Windows 10 の場合

「スタート」ボタン→「Fujitsu – マニュアル」→「リカバリガイド」の順にクリックします。

POINT

- ▶ 最新のリカバリガイドは、インターネット上のマニュアルでもご覧いただけます。
ESPRIMO シリーズ (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/>)
CELSIUS シリーズ (<https://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/>)

2. 「リカバリガイド」の「1.3 内蔵ディスク全体をリカバリする」および「1.4 セットアップ」をご覧ください。

ディスク作成ユーティリティ マニュアル
B5FL-0391-03 Z0-00

発行日 2023年12月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。